

PC橋の点検・診断方法など学ぶ

ME山口養成講座開講

山口大学工学部附属社
会基盤マネジメント教育
研究センター（センター
長・吉武勇）山口大学大
学院教授）を中心に行政
や建設業界が協働してイ
ンフラ再生技術者を育成

する「社会基盤メンテナ
ンスエキスパート山口
（ME山口）養成講座」が
今月開講した。19日に
は、下関市菊川町の富成
橋で点検・診断の現場実
習が行われた。



現場実習では、エイト
日本技術開発やME山口
の認定を受けた技術者が

講師を務めた。講師か
ら、「点検時には、有害か
そのままにしても良いひ
び割れなのかを判断して
もらいたい。一部の桁に

遊離石灰が見られるが、
他の桁では出ておらずな
ぜそのような状態なのか
を考えてほしい。遊離石
灰は、ひび割れ部からに
じみ出たものか、水分が
着いて表面に表れている

のか、また茶色なら錆汁
が内部から出ていると判
断できる。桁は年代によ
って形が違ったため、どの
時代に架設されたものな
のかを考慮して点検にあ
たってもらいたい。調査
には、見たことだけを書
くのではなく、ひび割れ
た年代の法令などの違い

から多くのことを推察
し、いろいろな観点から
点検すること」などと、
注意点やポイントなどを
聞きながら桁や橋脚など
をチェックシートに従っ
て点検した。

また、点検・診断時に
使う表面塩分計やコンク
リートテスター、鉄筋探
査機、ファイバースコー
プ、ひび割れ試験機、基
礎杭などの根入れ深さを
調査する機械などについ
ても解説を受け、障害物
を自動で回避して非G P
S 環境下でも作動して桁
間など狭小部に入って撮
影できるドローンの飛行
も披露した。

このほか、昨年から山
口県が運用開始している
小規模橋梁を対象とした
AIによる橋梁インフラ
点検・診断システムの説
明もあり、受講者はi P
ad proを使って3
Dモデルの作成、アプリ
上で情報入力して点検記
録の自動作成、AIによ

る健全性等の診断など、
一連の流れを体験した。

今年度は、9月10日を
皮切りに養成講座が始ま
り27日までの7回28コマ
の講座を開催し、建設コ
ンサルタントや建設、行
政職員ら合わせて50人が
受講している。講座で
は、道路舗装の維持管理
や橋梁概論、橋梁の設
計・施工技術の変遷、ト
ンネルの設計法（トンネ
ル概論）と点検・診断、
補修・補強、RC・PC
橋、鋼橋の劣化現象と点
検、診断、補修・補強な
どに関する座学ほか、下
関市の富成橋（PC橋）
や木屋川大橋第二高架橋
（鋼橋）、岩国市の松尾隧
道での現場実習を行う。
すべての講義・実習を
受講すると11月16日の修
了認定試験の受験資格が
得られ、修了試験に合格
すれば国土交通省登録資
格である「社会基盤メン
テナンスエキスパート山
口」の資格が得られる。